

三富紀敬著

『欧米のケアワーカー』

——福祉国家の忘れられた人々』

評者：垣内 国光

評者の専門領域は社会福祉なканずく児童福祉領域である。ソーシャルポリシー研究や労働市場分析などを専門とする著者の書評をするには力不足であることを自覚しており、当初、書評を引き受けるには若干のためらいがあった。にもかかわらず、評者が書評をお引き受けしたのは、社会福祉領域から見て、本書のテーマには強く惹かれるものがあったからである。ソーシャルポリシー研究や労働市場分析から見れば不十分であるとしても、社会福祉研究から見て多少の評価が可能であれば、それなりに意味があると思い直してのことである。そのようなわけで、いささかやぶにらみ的な書評になってしまふことを予めお断りしておきたい。

福祉研究における本書の位置

さて、これまで日本では、ケアワークの中軸を占める介護と保育の現実の労働者状態に対して、十分に研究の光があてられてはこなかったといつて良い。規制緩和、補助金削減と市場化政策という最近の福祉政策動向に照らせば、ケアワーカーはどのような労働市場のもとでどんな労働実態におかれているのか、また、どのような専門性を発揮できているのか、科学的に明らかにされる必要性が高まりつつある。ケアワ

ークのあり方と福祉における処遇の質とは強い関連を持っており、最近、そのケアワークが急速に変化する兆しを見せているからである。卑近なところでは、特別養護老人ホームにおけるセクシャルな虐待事例や営利法人経営保育園の極度な退職事例などがマスコミで報道されており、そのいずれにおいてもケアの質が問題視されている。

しかしながら、現実の福祉研究を管見するに、政策追隨的な規制緩和論や市場化論、あるいはケアワーク論抜きの第3者評価論などの研究は多く見られても、著者も指摘するように、現実の日本のケアワークに深く切り込んだ研究は低調であることを率直に認めざるを得ない。

なぜか。ケアワークの現実の世界に深く入り込めば、そこには、高度な専門性を備えた専門家どころではない低賃金不安定労働のワーキングプアの現実、ケアの質を低下させかねないケアワーカーの現実があるはずである。そのような現実を分析するならば、どのような立場をとろうとも、福祉市場化を志向する政策への批判へと向かわざるを得ないからである。それは少なくとも若い学徒にとっては御利益のある研究となりそうもない。

今や、政策動向がめまぐるしく展開し実践も高度化しているために、政策追隨型あるいは政策密着型のスタイルをとらなければ福祉研究はもとより調査さえもままならない状況が招来している。福祉研究は、福祉を必要とする人々への共感をもちながら、いかにしてかれらの権利を回復し福祉実践に貢献できるかという実践の学として存立していたはずである。学の独立を失ったかの憾みのある研究が少なくない。

そうした状況下にある日本の社会福祉研究において、本書は決定的な刺激を与える書として評価される。とりわけ、低調な日本のケアワーカー研究、処遇の質研究に正面から問題を投げ

かけ、今日の福祉政策について示唆を与えてもいる。本書は、G.エスピン-アンデルセンが自由主義レジームと位置づけるイギリス、アメリカ、カナダを事例として分析した緻密な研究書であるが、そこには日本が汲むべき大きなものがある。警鐘をならした書であるといつて良い。公的関与が低く財政補助が少なく市場と家庭に介護・保育を委ねようとするイギリス、アメリカ、カナダの介護職・保育職の労働のあり方が、日本の福祉の現実とケアワーカーの未来とも重なりあってはいないかと著者は言いたげである。

データと文献を駆使した英・米・加の福祉労働者状態研究

前置きはこれぐらいにして、本書の紹介をかねて評価を述べることにしたい。

本書が評価されるべき点の第1は、イギリス・アメリカ・カナダのケアワーカーに関するデータと文献を緻密かつ詳細にサーベイした最高の福祉労働者状態研究であることである。社会政策、労働政策、社会福祉の資料と文献を広く渉猟し、時にはベバリッジ報告にまで歴史的文献をさかのぼって触れながら、隙なく検証、実証し、イギリス・アメリカ・カナダのケアワーカーのおかれている現実が、動物世話人や家屋清掃人と同レベルの低水準であり、低賃金ゆえの「二度働き」が広範に存在し、同職種及び他職種間との労働移動が激しく、資格レベルも専門性レベルも高いものでないことを余すところなく明らかにしている。

たとえば、イギリスの介護ケアワーカー問題については、ケアの語源からはじまり、ケアワークの領域、ケアワーカーの職業分類、ケアワーカーの人数規模、女性比率、婚姻別比率、年齢層、労働組合組織率、費用便益分析、他職種との賃金比較、労働時間（帯）、労働災害、職

業病、労働移動率、欠員率、サービスの質論、対クライアントケアワーカー比、サービス供給主体多元化論、民間営利部門占有率、サービス外部化、サービス満足度事例にいたるまで資料を駆使して言及されている。保育ではこれらに加えて、なぜイギリスでは、公的保育が立ち後れてきたのかその原因を歴史的にさかのぼって分析されている。見解の分かれる問題についてはそれぞれの主張まで紹介されている。

しかも、表は全50葉に及ぶが、原典資料にあたって著者自らが作成したオリジナルな表が少なくない。たとえば、92頁にはイギリスの「保育政策に関する諸見解一覧（1978～98年）」が1頁余にわたって掲載されている。4つの見解における差異を詳細にわたって紹介しており、この表作成に用いた原典資料は6つに上る。それらの資料を示し詳細な分析を加えながらも、マニャックな資料紹介に終わることなく主張の明快な成果となっていることが高く評価される。

あくまでデータや資料に忠実な著者の誠実な研究態度も好ましい。研究方法や研究姿勢のお手本として大学院生に学ばせたい書である。

ケアワーカーの処遇が福祉ケアの質を規定することを実証

本書が評価されるべき第2は、イギリス・アメリカ・カナダの分析を通してケアワーカーの労働条件がケアの質を決定づけることを明らかにしていることである。著者は、介護と保育の質を担保する要件として、知識、経験の蓄積、継続性、情緒面での支援（評者の理解では共感的な関係性の構築）、高い能力の獲得と権限の付与、1人あたり担当の要介護者数児童数、公的財政支出の7点をあげ、ケアの質論に一步踏み込んだ議論を提供している。介護や保育の質はクライアントとの交互作用によって成立する

ところが大きく個別性も強い。質を高め維持していくためには、専門性、裁量性、研修システム、容認できる対クライアント数・労働時間、容認できる労働条件などについて、議論が必要であろう。ちなみに、評者はケアの質に関連する要件を、専門性とミッション性と労働条件の3つではないかと理解している。

これまでの日本では、ケアワーカーの労働条件がケアの質を決定づけることは常識として理解はされてはいても、実証されてきたとはいえない。そうした研究の怠りが今日の福祉の市場化論の暴走を許す要因の一つとなってもきたというのは言い過ぎだろうか。外国研究とはいえケアワーカーの労働条件とケアの質の関係を明らかにした意義は高いといえる。介護職も保育職も離職率は相当高く、「児童は繰り返し現れる新任の保育士を前に心理的なたじろぎさえみせるであろう。そこには文字通りのコミュニケーションは期待しがたい。これが、児童の発達に益するとは、とても考えられない」との指摘は明日の日本を予想させる。

欲をいえば、対人援助労働の専門性とは何か、についても深めていただければ有り難かったが、それはないものねだりというものであろうか。

自由主義レジームの福祉の未来

第3に本書が評価されるべき点は、ずばり自由主義レジームの福祉ケアの未来について、実証的にも理論的にも明らかにした点にある。著者は、相対的にケアワーカーの地位が高くケアの質が高い北欧と比較して、イギリス・アメリカ・カナダの自由主義レジームのケアの質が低いことを指摘し、イギリス・アメリカ・カナダのケアワーカー問題を論ずることが「日本の問

題を考える一助」となると述べている。われわれ福祉政策領域に属する者が本書を学ぶ価値はここにある。

著者は福祉政策分析として本書を書いたのではないことは承知しているが、労働市場分析からさえも等閑視されてきたケアワーカーとは何か、そのケアワーカーによって提供されてきた福祉サービスとは何か、福祉領域に学ぶ者としてはまことに重い課題を突きつけられた思いがする。少なくとも、福祉労働者のいっそうの不安定化を促進しようとする今日の日本の福祉政策の延長線には明るい光は見えにくい。

政策追従の浮ついた福祉研究の多いなか、ケアワーカーに思いを寄せて福祉労働市場分析の視点から市場的な福祉の行く末を占った本書の価値は高いといえよう。

最後につけたしをひとつ。本書が公刊される前、著者から評者に「日本ではケアワーカーは介護職を指すのが一般的だが、なぜ、あなたは保育職を含めているのか」との問い合わせがあった。本書が上梓寸前であることはつゆ知らず、あやふやな答えをした覚えがある。その評者がこうして書評を書くのは汗顔のものであるが、著者がケアワーカーの代表としてこのように介護職と保育職とを位置づけて分析されたことに、大いに賛同するとともに嬉しい思いもさせていただいた。なぜ、保育職もケアワーカーなのか。本書はその評者の思いを代弁してくれた快著でもあることを付け加えておきたい。

(三富紀敬著『欧米のケアワーカー―福祉国家の忘れられた人々』ミネルヴァ書房、2005年11月刊、xii+384頁、定価6,500円+税)

(かきうち・くにみつ 明星大学人文学部教授)